

社会的共通資本の理論的、制度的、歴史的研究

宇澤 弘文 (同志社大学 開発推進機構 教授)

【概 要】

社会的共通資本の理論的、学說的、制度的、歴史的、文化的側面について総合的な研究を行う。

理論的・学說的側面については、大気、森林、河川、水、土壌などの自然環境、道路、公共的交通機関、上下水道、電力・ガスなどの社会基盤、さらに教育、医療、司法、金融制度、都市、農村、文化資本などの制度資本からなる社会的共通資本の主要な構成要素について、技術的、経済的、社会的、文化的特質を浮き彫りにするような理論的モデルを構築し、その制度的、政策的含意を明らかにする。また、社会的共通資本の考え方が、経済学の歴史の中で、どのように位置づけられてきたかを考察する。

制度的側面、歴史的、文化的側面について、社会的共通資本の重要な構成要素である自然環境、農村、都市、教育、医療、金融、文化資本の各分野について、それぞれの果たしてきた歴史的、社会的、経済的な役割を分析し、持続的な経済発展が可能になるためには、どのような制度的前提条件が満たされなければならないかを考察する。

【期待される成果】

本研究は、1960年代から1990年代にかけて展開された動学的最適資本蓄積の理論、内生的経済成長の理論、社会的共通資本の経済理論を有効に適用するとともに、これらの理論を深化し、展開し、新しい経済理論の発展に寄与するものである。また、Veblenの制度学派の経済学の考え方を一つの理論的体系として整理し、経済学の考え方に新しい視点を取り入れるものとなっている。さらに、地球温暖化の問題について、京都会議の結論を補強、補足し、新しい国際協調への足掛かりを与え、また、教育、医療、金融、都市、農村に関わる問題についても、持続的経済発展の可能性を求めて、新しい研究を展開する。

【関連の深い論文・著書】

Economic Theory and Global Warming, Cambridge University Press (2003)

宇沢弘文著 『経済解析 - 展開篇』 岩波書店 (2003年)

【研究期間】 平成 16 ~ 20 年度

【研究経費】 56,700 千円

【ホームページ】 <http://www1.doshisha.ac.jp/rc-socap/>

